

第1学年国語科学習指導案

日 時 平成22年11月19日(金) 4校時

児 童 1年1組 男15名 女12名 計27名

指導者 小田 多紀子

研究課題

- ・友達の伝えたいことを理解しようとする子どもの育成
- ・交流を通して言葉から想像する読みのおもしろさに気づく授業

研究課題について(設定理由)

本学級の子どもたちは、発表したり発言したりすることが大好きである。しかし、1年生という発達段階から友達の発表や発言を集中して聞くことは難しい様子が見られる。

そこで友達の話を聞くことのおもしろさを実感させることが、友達の伝えたいことを理解しようとする気持ちにつながるであろうと考えた。話を聞くことのおもしろさを実感させるために、国語の授業において、ひとつの文章や言葉からそれぞれが想像したことを交流させたい。そのことにより、様々な見方や感じ方があることを知り、想像を広げながら読むことのおもしろさに気づいていくことができると考え本研究課題を設定した。

1 単元名 本とともにだちになろう

教材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(ハンス・ウィルヘルム)(光村図書 1年下)

2 単元について

(1) 児童観

本学級は、本に親しみを持っている子どもが多い。手元に本があると友達と一緒に読み合ったり、休み時間になると積極的に図書館へ行って本を借りてきたりしている。週3回の読書タイムでは、静かに読書に取り組む姿勢ができてきている。また、「わくわくお話タイム」(読書タイムの4回に1回の割合で支援員が行う読み聞かせ)を大変楽しみにしている。一方で、ただページをめくるだけで「読む」という行為を一人では出来ない子どもや進んで本を借りようとしない子どもも見られる。

「読むこと」の学習としては、「大きなかぶ」で、登場人物になりきって台詞を付け加え劇化するという言語活動を行った。このことにより、文章をもとに場面の様子を想像しながらその場にふさわしい台詞を考えて発表することができた。「くじらぐも」では、場面の様子を言葉から想像したり、会話文の読み方を工夫したりして、好きな場面を選んで音読することができた。これらの学習を通して、言葉や文章から想像を広げるといふこと、また、同じ言葉でも人によって感じ方が違うということを理解し始めている。

これまでの学習をもとに、友だちとの交流を通して様々な感じ方があることを知り、それらを聞くことにおもしろさを実感できる授業を行っていくことで、本を読む楽しさを発見するとともにさらに親しむことができる考えた。

(2) 教材観

本単元で育てたい主となる能力は、新学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の内容にある「カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」である。

本教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、主人公である「ぼく」が小さい頃に飼っていた犬の「エルフ」について回想する話である。「ぼく」とエルフが過ごした日々を、家族とエルフとの関わり方と比較しながら物語は進んでいく。「ぼく」の与えてきたあふれる愛によって、「ぼく」自身がエルフの死を乗り越える支えとなっていたことが最後にわかる。子どもたちは、生き物に対して非常に強い興味・関心をもってお

り、主人公や登場人物に同化しながら読むことができる作品である。また、たくさんの愛らしい挿絵が用いられており、想像を広げて読むことの助けとなり、主人公や犬のエルフに対する感じ方を交流することで読書の楽しみも広がると思われる。

(3) 指導観

第一次では、単元のねらいや学習計画を確認し見通しを持つことで、子どもの学習意欲を高めていきたい。また、これまでの読書傾向をふり返り、動物がでてくる話が多いことにも気付かせ本教材への学習に意欲がもてるようにしたい。

第二次では、主人公、登場人物、場面設定などのあらすじをとらえさせる。「ぼく」が「エルフ」と過ごしてきた日々の中でどれだけ愛情をそそいできたかを読み、そのことが「エルフ」の死後も救いとなっていることを読ませたい。それぞれの場面において、自分の気に入ったところを見つけ、それらを交流することで、感じ方の違いに気づいたり想像を広げたりできるようにする。毎時間好きなところをノートに書き、第三次の言語活動へとつなげる。

第三次では、子どもが選んだ動物の本について紹介させる。第二次の学習をもとに登場人物、あらすじを自分の力でみつけ、好きなところをカードに書いて紹介する言語活動を行う。こうした活動が、今後本への関心を深めるとともに、さらなる読書活動へとつながっていくものとする。

3 目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

○動物がでてくるお話に興味を持ち、楽しんで読もうとする。

(2) 読む能力

○動物がでてくるお話を読み、登場人物について想像を広げながら読むことができる。(読 ウ)

◎動物がでてくるお話に興味を持ち、楽しく読むことができる。(読 カ)

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○長音、拗音、促音などの表記ができ、文の中で正しく使うことができる。

(言イ 【エ】)

4 指導計画

(「読むこと」9時間)

次	時	学 習 内 容
一	1	・これまでの読書生活を振り返り、学習計画を立てる。
二	2	・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読んであらすじをとらえる。
	3	・元気なエルフと過ごした「ぼく」と家族の日々について、想像を広げながら読む。
	4	・老いたエルフと「ぼく」の様子について想像を広げながら読む。
	5本時	・エルフの死後の「ぼく」と家族について、想像を広げながら読む。
	6	・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の紹介カードを書く。
三	7	・紹介したい本を選び、読む。
	8	・選んだ本の紹介カードを書く。
	9	・自分の書いた紹介カードを発表する。

5 本時の指導

(1) 目標

「エルフ」の死後の「ぼく」の様子について交流し、自分の好きなところを見つけることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (◇評価)
導 入 5 分	1 前時を想起する。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 三のぼめんで、好きなところを見つけよう。 </div> 3 課題解決の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を用いて、前時に見つけた好きなところを想起することで本時の学習への意欲を高める。 ・本時では、エルフが死んでしまったあとの「ぼく」の様子について考えながら好きなところを見つけることを確認し、学習の見通しが持てるようにする。
展 開 35 分	4 学習課題を解決する。 (1) 教材文を音読する。 ・ペアで丸読み。 (2) この場面のあらすじを確かめる。 ・誰がでてくるか。 ・「エルフ」がどうするところか。 ・「ぼく」がどうするところか。 (3) 好きなところにサイドラインを引く。 (4) 好きなところを話し合う。 ・ペアで交流する。 ・全体で交流する。 (5) 好きなところを理由もつけてノートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで読むことでどの子どもも確実に学習場面を音読できるようにする。 ・サイドラインを引く際は、理由も考えさせる。 ・見つけられない子どもには、エルフに対する「ぼく」のやさしさや愛情がどこにあるか考えさせる。 ・自分の考えに対して相手からの感想をもらうことで、交流の楽しさを味わわせる。 ・様々な考えを聞かせることで、想像を広げ、感じ方の違いを知ることができるようにする。 ・主語と文末を提示して、スムーズに書き始めることができるようにする。 <p style="text-align: right;">◇「エルフ」の死後の「ぼく」の様子について交流し、自分の好きなところを見つけることができたか。 (ノート)</p>
終 末 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の感想を発表する。 ・次時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り満足感を持つことができるようにする。 ・次時では、これまでノートに書いてきたことをカードにすることを知らせ、意欲付けを図る。